

宇都宮製作 大西健路会長の 旭日双光章受章記念祝賀会を盛大に開催

大阪医療品卸商組合・西部ゴム商組などから150人が参集

2025年秋の叙勲で旭日双光章を受章した宇都宮製作（本社・大阪府大阪市、大西浩太郎社長）の大西健路代表取締役会長の受章記念祝賀会が2月25日、リーガロイヤルホテル大阪ヴィニエツトコレクション（大阪府大阪市）ウエストウイング山楽の間で開催された。およそ150人が参集し、大西氏を祝福した。

大西氏は2008年に大阪医療品卸商組合組合長（現相談役）、同年全国医療品卸商組合連合会副会長に就任。これら組合活動に著しい貢献を果たし、医療品業界の発展に寄与したことが認められた。今回の受章は大阪医療品卸商組合の推薦を受けたもので、大阪医療品卸商組合の松浦由治組合長（ピップ代表取締役社長）が発起人代表となり、同副会長の福井誠氏（川本産業

代表取締役社長執行役員）など7人が発起人として名を連ね催した。

各団体で要職を果たしてきた大西氏は、ゴム業界においても医療用手袋をはじめゴム・樹脂製品を医療、建設やインフラ分野に収める宇都宮製作で1990年に代表取締役、2019年に代表取締役会長に就任。その間、2004年には西部工業用ゴム製品卸商組合副理事長（現相談役）を、また2017年には大阪ゴム商業会会長など要職を歴任してきた。

祝賀会には西部工業用ゴム製品卸商組合の小島孝彦理事長（角一化成代表取締役社長）、糸井宏之副理事長（千歳商事代表取締役社長）、小賀野哲朗副理事長（オガノ代表取締役）、また大阪ゴム商業会時代に会長を務めていた

森孝裕西部工業用ゴム製品卸商組合理事（モリテック代表取締役社長）をはじめ交流の深いゴム業界関係者も出席した。なお、今年1月22日の西部工業用ゴム製品卸商組合の新年互礼会でも大西氏の旭日双光章受章が紹介され参加者140人がお祝いをしている。

祝賀会では発起人を代表して大阪医療品卸商組合の松浦組合長が「大西氏が経営されている宇都宮製作は業界に先駆けて極薄の手袋を開発され、多くの医療機関や食品工場、介護施設などに利用され感染防止製品として高く評価されるなど社会貢献されている。数年前の新型コロナウイルス感染症の時には厚生労働省と契約をして必要数をしっかりと確保し厚生労働省からも感謝状が授与された。

振り返れば、1987年に宇都宮製作へ入社後は業務改革に力を注ぎ業績回復にあたった。1990年の社長就任時には、これまでなされなかった経営方針発表会を行い、社是、経営理念を制定し従業員と経



お孫さんから花束を渡された大西夫妻

営者との距離を詰めて一丸となって社業の発展に尽くす体制を整えた。その後は海外事業に着手するなど強いリーダーシップを取って現在の宇都宮製作の礎を築いてきた。また大阪医療品卸商組合の組合長時代には基幹事業となる西日本医療総合展示会を毎年開催し、医療品メーカーの数多くの商品の周知に尽力。東日本大震災の時も組合員各企業をまとめ3,000万円相当の物資を調達し岩手県の被災地に送るなど医療衛生対応に取り組んできた姿勢が認められ今回の受章となった」と称えた。

その後、井上和幸大阪府健康医療部生活衛生室業務課課長と天田泰正日本衛生材料工業連合会会長（白十字代表取締役社長）から祝辞を受け、引き続きお孫さんたちから花束の贈呈とお祝いの言葉が添えられた。

大西氏は「今、孫たちから花束をもらい感無量で言葉が

出ないが、まずは発起人の方々をはじめ多くの皆様に参加いただき、心より感謝申し上げます。大阪医療品卸商組合組合長、全国医療品卸商組合連合会、そして大阪ゴム商業会などの活動を通して厚生労働省から葉事功労の分野で推薦を受け受章したと理解している。皇居で天皇陛下から拝謁も賜ったことは身に余ることだったが、皆さんに出会えたこと、そして何よりも社業を支えてくれた社員、家族、今日まで健康な体を与えてくれた両親に感謝したい」と述べ謝辞に変えた。

祝宴の前の乾杯の発声は鴻池忠彦鴻池運輸代表取締役会長兼社長執行役員が行い祝宴に入った。会食中には華やかなヴァイオリン演奏とオペラを交えたイベントもあり盛り上がりを見せた祝賀会は福井誠大阪医療品卸商組合副組合長（川本産業代表取締役社長執行役員）が閉会の辞を述べ、大阪締めをして散会となった。



発起人を代表してあいさつする松浦氏



乾杯のあいさつをする鴻池氏



閉会の辞を述べる福井氏